

4. 室戸岬漁場調査

室戸沖漁場調査

漁業科 浜田英之

昭和61年度に再開された高知県沿岸漁場調査の一環として前年度に引続き、平成2年度は東洋町野根、室戸市高岡至室戸岬、室戸岬至行当岬の3海域の海岸地形測量、深浅測量、底質調査等を実施し、漁場図を作成した。

1. 調査方法

(1) 調査海域

東洋町野根、室戸市高岡至室戸岬、室戸岬至行当岬の3海域（別図参照）。

(2) 海岸地形測量

海岸地形測量には光波測距儀付セオドライト（東京光学製、GUPPY GTS 2B¹⁰）を使用した。また、参考として2万5千分の1地形図（国土地理院作成）を使用した。

(3) 測深調査

調査船として土佐海洋丸（48トン、750馬力）を使用した。測深機としては土佐海洋丸に装備されている古野電機製魚群探知機（FE-W 822ET、出力2kw、周波数200kc）を使用した。また、海上における測位は借り上げた電波測位機（Electro-O-Posik, Model YM-100）を使用し30秒毎に実施した。主局と2従局間の距離により描かれる2個の同心円の交角が不良な一部の海域では電波測位による1距離と、陸上の従局に設置したセオドライトによる陸上物標と調査船間の測角により位置決定を行った。また調査船は10ノット前後の速力で航走させた。

測得水深は海上保安庁水路部刊行の潮汐表に記載されている測深日時の室津港の潮高およびバーチェックの結果を用いて補正し、基本水準面（略最低低潮面）下の深さをメートル単位で示した。

(4) 底質調査

調査海域内の40点でハンドレッド使用して底質を調査し、その結果を底質記号で表示するとともに、魚探記録を併用して岩界線等も推定した。

2. 漁場図作成および考察

調査、測量の結果から海岸地形図、航跡図、水深図等を作成し、製図作業を経て最終的に後に掲載した漁場図原図を6,000分の1の縮尺で作成した。

これらの漁場図を順次見ていくと、まず野根海域では伏越ノ鼻沖に4カ所小規模な岩礁域が見

られるほかは、平坦な砂泥の海底が広がっている。

高岡至室戸岬海域では30 mの等深線付近まで岩礁域が続き、その沖合は100 m線を越えると急斜面となっている。

室戸岬至行当岬海域では、岩礁域は室戸岬沖で80 m線付近まで、行当岬沖で60 m線付近まで広がっているが、室戸岬漁港から室津港にかけての沖合には平坦な砂泥底が見られる。





